

実践のまとめ（第2学年 道徳科）

上越市立城東中学校

教諭 佐藤 皓

1 研究テーマ

発問や話し合いの方法を工夫し、仲間と議論しながら
道徳的諸価値について多面的・多角的に考えを深める授業づくり

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領において、「考え、議論する道徳」への質的転換が求められている。学習指導要領の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」には、「生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実すること。その際、様々な価値観について多面的・多角的な視点から振り返って考える機会を設けるとともに、生徒が多様な見方や考え方に接しながら更に新しい見方や考え方を生み出していくことができるよう留意すること」と示されている。上記の点を達成させるために、より活発な議論が生まれ、その中で考えがより深められるような発問を工夫したり、仲間同士で活発な意見交換ができる話し合いの仕組みを作ったりしていきたい。

(2) 研究テーマに迫るために

①議論につながる発問の工夫

発問の仕方、文言などをよく検討し、生徒が仲間と話し合い活動をする上で、議論しやすく、多面的・多角的にとらえやすくなる工夫をする。

②話し合いの仕方の工夫

ホワイトボード、ICT 機器を活用し、議論の活発化を図る。自分の考えを仲間に発信しやすくしたり、仲間の言葉を視覚化してシェアしたりすることでより考えを深めさせる。

③ICT 機器を用いた魅力的な教材づくり

授業の導入や教材を読むにあたってのレディネスづくりなどを ICT 機器を用いて行う。プレゼンテーションソフト、グループウェアなどを効果的に用いて魅力的な教材づくりを意識する。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ・話し合い活動において、課題に対して多面的・多角的に議論しているか見取る。
- ・授業の振り返りの記述において、仲間との話し合い活動を通して、思考が広がったり、新たな視点に気付いたりして、自らの生き方について考えを深められているか見取る。

3 指導計画と生徒の実態

(1) 主題名 誠実な生き方

(内容項目 A 向上心、個性の伸長)

(2) 教材名 五万回斬られた男・福本清三

(3) ねらい

「五万回斬られた男」と称される福本清三さんの生き方について考えることを通して、自分自身が納得できる充実した人生を生きるための心得を模索しようとする心情を育てる。

(4) 生徒の実態

男子 19 名、女子 14 名の計 33 名のクラスである。道徳の授業に対して前向きな生徒が多く、話し合い活動では活発な意見の交換ができる。授業の振り返りの記述は、自分の言葉で丁寧に記述することができる生徒が多い。

一方で、自分自身に関することや自分の将来に関する記述をすることが苦手である。自分の長所や自分らしさについて深く理解できていない生徒も少なくない。

本授業を通して、自身の自分らしさや個性に目を向けて、これからの生き方に生かせるようにさせたい。

4 本時の展開

(1) ねらい

福本清三さんの生き方に触れることで、自分らしく生きていくことが人生を充実したものにすることに気づき、自身の自分らしさを生かしながら今後の人生をより良くしていこうという意欲を高める。

(2) 展開の構想

- ・導入は ICT 機器を用いて、福本さんについて紹介したり、動画を視聴したりして教材への意欲を高めさせる。
- ・福本さんの「斬られ役」に対する誇りやこだわりを考えたうえで、グループでシェアしたり議論したりさせて考えを深めさせる。
- ・自分らしく生きていくことが人生を充実させていくということに気付かせ、自身の将来の生き方を考えさせる。

(3) 展開

時間	学習活動 ★生徒の反応	教師の働きかけ	□評価 ○支援
導入 10 分	・福本清三さんについて知る。	・スライドや動画を用いて福本さんを紹介する。 ・「斬られ役」を極めたことでハリウッド映画に出演したことを理解させる。	○「脇役」や「斬られ役」は、本来は主役へのステップでしかないのだが、福本さんはそこに人生をかけたことを理解させる。
展開 ① 23 分	・資料を読む。 ・「ラストサムライ」での「斬られ役」のシーンを視聴する。	・範読する。	○資料が長いので、段落で区切ったり、福本さんの心情に迫るような質問を投げかけたりする。

福本さんが「斬られ役」を極めたのは、どのような思いからだろうか。

・「斬られ役」を演じることに對する「〇〇という喜び」「〇〇という思い」「〇〇という誇り」という形でワークシートに箇条書きさせる。

- ★主役を光らせ、芝居に貢献できる喜び
- ★自分が一番輝ける仕事が「斬られ役」であるという思い
- ★長い時間をかけて磨き上げてきた演技であるという誇り

・班でシェアしホワイトボードにまとめ、班で福本さんの思いに最も近いと考えられる意見を班で議論する。
 ・クラス全体で各班の意見をシェアする。

・「斬られ役」は本来クレジットにも名前が載らず人から認められることの少ない役柄であるのに、福本さんは「斬られ役」を演じることに對して特別な思いをもっていたことを生徒に理解させ、具体的にイメージさせる。

・どの意見が最も福本さんの思いに近いかを想像して議論するように声をかける。

□福本さんの「斬られ役」に對する思いを考えることはできたか。

○「主役を立てる喜び」だけでなく「斬られ役」を演じることそのものにやりがいを感じていたことに気付かせる声掛けをする。

○ホワイトボードに箇条書きさせ、カラーペンで福本さんの思いに最も近いと思うもの3つに○をつけさせる。その理由についても議論させる。
 □班での議論を通して、多面的・多角的視点から考えを深めることができているか。

展開
②
10分

・福本さんが生きがいのある素晴らしい人生を送ることができたのはなぜか考える。
 ★自分自身で納得のいく仕事をしてきたから。
 ★自分の好きなことに打ち込めたから。
 ★作品を作り上げるうえで役に立てたから。

・自分が誇りをもって「斬られ役」を演じ続けたことで、福本さんが「生きがいのある人生」を送れたことに気付かせる。
 ・「斬られ役」を極めた唯一無二の役者であることは、「自分らしさ」を極めたことであることに気付かせる。

○「自分らしい人生を送ることができたから」というような考えを生徒から引き出し、「自分らしさのある人生」に目を向ける振り返りへとつなげる。

<p>終末 7分</p>	<p>・授業の振り返りをワークシートに記述する。 ★人から認められる機会が少なくても、自分の納得する仕事を極めてきた福本さんはすごい。 ★福本さんの「斬られ役」に徹して、主役をひきたてることに喜びを感じる姿に感銘を受けた。 ★自分らしさを追求しながらも、人の役に立てている福本さんの生き方を見習いたい。 ★私も自分のやりたいことを追求できる人生を送りたい。</p>	<p>・福本さんの生き方からどんなことを学んだか、「自分らしくある人生」とはどんな人生か、自分の「自分らしさ」は何か、自分の人生をどのように充実させたいかなどの視点を与え、記述させる。</p>	<p>□自分の「自分らしさ」に目を向けながら、自分のこれからの人生をより充実させるための考え方が記述されているか。</p>
------------------	--	--	---

(4) 評価

- ・「生きがいのある充実した人生」について「自分らしさ」の観点から考えを深めている。
- ・「生きがいのある充実した人生」について、「自分らしさ」を生かしながら、これからの自分の生き方を志そうとする意欲を高めている。

5 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>課題 福本さんが「斬られ役」を極めたのはなぜだろう？</p> </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">流れ</div> 福本さん を知る 読む 考える →トーク まとめ	★「斬られ役」 →本来は主役へのステップ クレジットにも載らない 「無名」の役	★生きがいのある人生を 送ることができた！(生徒の言葉)(生徒の言葉)(生徒の言葉) →「自分らしさ」を追求した！

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

①ICT 動画を用いての導入による成果が見られた。

授業の導入でスライドや実際の殺陣の映像を見せたことで授業に対する意欲を高めることができた。また、テンポよく授業を進めることができた。

②発問の工夫による成果が見られた。

「班でのベストアンサーを決める」という活動が考えを深めるきっかけとすることができた。ただ単に意見をシェアするだけでなく、福本さんに共感しようとしながら一つ一つの意見を吟味する姿が見られた。自分で考えることのできなかつた考え方に気付いたり、自分の意見と仲間の意見を比べたりすることで、考えを深めることにつながられた。

【主発問に対する生徒の考え】

- 映画に役立てるという喜び ○自分が主役を引き立たせているという誇り
- 自分の役を全うしたという誇り ○斬られ役が最も自分らしさを表現できるという思い
- 自分にしかできない演技ができるという誇り

③「自分らしさを生かしより良い人生を考える」というねらいに迫ることができた。

主題である「誠実な生き方（内容項目 A 向上心、個性の伸長）」に関わる考えを深めることができた。福本さんの「自身で納得する生き方」「自分らしさを大切に生きる」という考え方に気付けた生徒が多かった。

【生徒の振り返りより】

- 自分の個性を伸ばして将来につなげていきたい。これから私はどんなふう生きるのか、個性や自分らしさをどう表現していくのか、よく考えていきたい。
- 福本さんは、仕事をもらえることに対して喜びを感じたり、わずかな時間でも懸命に役作りをしたりしていてすごいと思った。自分が夢中になれることに一生懸命取り組むことで、やりがいを感じられるような充実した人生にしたいなと思った。
- 自分らしさのある人生は達成感もあるだろうし、楽しく生きられるだろうなと感じた。私の自分らしさについては、今はよくわからないけれど、1つのことを極めるということとはとてもかっこいいことだと思うので、好きなことだけでも夢中になって頑張ることができたらいいなと思いました。
- 無名でも「斬られ役」にやりがいを感じ、その仕事を続けていく福本さんの姿はすごいと思う。私も何かに夢中になれることを見つけ、誰よりもいい人生だったと胸を張って言えるように人生を過ごしたいと思った。
- 自分らしさのある人生を送るということは、自分のしたいことに夢中になることができたり、自分のことをしっかり表現できたりする人生を歩むということだと感じた。将来、自分のことを表現できる仕事をしたい。
- 主役じゃなくても、今の自分がやっていることの重要さややりがいを自分で見つけて、最後までやり遂げる姿に感銘を受けた。自分のやっていることに誇りを持てるような人になりたいと思った。
- 自分が夢中になれることを見つけて、それを続けることが自分らしい生き方をする第一歩だと考えた。周りから評価される道だけでなく、自分自身で納得する道を選ぶことが大切だと感じた。

(2) 研究テーマに関わって

①議論につながる発問の工夫について

教材の中での「対立軸」をはっきりさせたうえで発問を行うということが大切だと感じた。今回の教材であれば「主役としてスポットライトを浴びて活躍する役者（他人から評価される生き方）」と「斬られ役としてクレジットにも名前の載らない役者（自分自身で納得して選んだ生き方）」を比較し、どうして福本さんが後者を選んだのかということを考えるという点を明示することが、生徒が主題に迫れるポイントであると考えた。

②話し合いの仕方の工夫について

単に意見のシェアに終わらない話し合い活動の工夫が大切であると感じた。仲間の意見と自分の意見を比べて、さらに考えを深められる課題を設定することが大切である。そのために発問は話し合い活動を意識して、主題に迫りながらも生徒の様々な意見が出てくるような文言で問いかけるべきだと感じた。

③ICT 機器を用いた魅力的な教材づくり

教科書の教材を補足するうえで、映像資料の重要性が高いと感じた。写真などの静止画や文字だけでは生徒に伝わらない部分が多いので、映像と音を利用して教材に迫ることが大切であると考えた。今回の教材でも授業冒頭でスピード感のある「殺陣」の映像や福本さんが実際に「斬られ役」として活躍した映像を見せたことで、教材への意欲を高めることができた。

(3) 今後の課題

①話し合い活動で考えを深めることができるような発問の工夫

今回の公開授業を通して考えた「対立軸を明確にした発問」を意識していきたい。また、「①個人で考え、②仲間と意見を交換し、③仲間の意見を踏まえて自分の考えを深める」という授業の流れを意識した発問の内容や文言を考えていく。多面的・多角的にさまざまな意見が出て、話し合い活動では対立軸をとらえたうえで議論ができるような発問を考えていきたい。

②ICT 機器による新たな意見のシェア方法の確立

今回の自身の公開授業や他の受講者の公開授業を通して、班での話し合いのあとの意見の全体シェアの方法について話題に上がることが多かった。より多くの意見に触れたり、他の班の生徒へ自分たちの班の意見を発表したりする活動は大きな成果がある一方で、時間がかかってしまい、他の活動の時間を削ってしまうという課題がある。その課題を解決できるような ICT 機器を活用したシェア活動について研究していきたい。具体的な方策としては、インターネット環境を利用しクラウド上に意見を公開し、他の生徒と意見交換をする方法や、テキストマイニングなどの AI を用いた意見のシェアの方法などを考えている。ディスプレイと向き合う時間が長くなってしまい、他の活動に影響が出てしまう可能性もあるため、他の活動とのバランスの取れたベストな方法を確立していきたい。